

<今日の聖書から>

【願い】“イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らを見もとに連れてきた(10:13)”から今朝の箇所が始まります。理由は記されていません。これは“素朴な願い”であったということからみましょう。噂を聞いたのか、癒し主である主を知っていたのか、彼らに“何故連れて来たのか”と質問したら、おそらく筋道の通った整然とした説明は返ってこなかったように思います。また、この子らには何か癒して頂く障害があったのかどうか、ということも記録されていません。“生涯の祝福を願って”ということかもしれません。もともと“願い”というものは、こんなものかもしれません。“実現したいこと”がはっきりしていなくても、私たちの願いは、根源において素朴な、しかし強いものを秘めているようです。

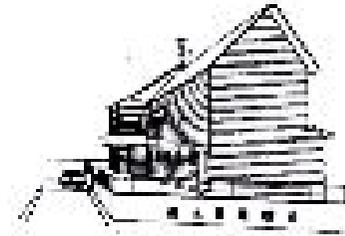
【大人のルール】しかし、大人である弟子たちは、10:13で“たしなめること”をしています。ここで思い出すことがあります。それは“私たちの教会もしている”ということです。聖書のこの記録はよく知られていますので、あからさまには言いませんが“教会の秩序”が引き合いに出されたりします。残念ながら教会の歴史はそのように作られてきた面があります。“信仰生活を裁くこと”をして来たのです。そして素朴な、且正しい思いが踏みにじられてもきたのです。『赤と黒』と云う小説があって、“貴族の教会と貧民の教会”の衝突という不幸が描かれていますが、それほどでなくても、私たちの教会もしているのです。

【子どもの人格】次の14節からは、主語が“やって来る幼子”になってしまっています。何歳くらいの子供たちかは分かりませんが、自分でやって来ることの出来るほどの子供たちでした。この子らに反して、私たちは恵みがそこにあっても、自ら憚ってしまうことがあります。ヘブル書4:16には“はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか”とあり、権威の陰で恵みを無駄にしてしまうこともあるのです。“神の恵みをいたずらに受けてはならない(コリント6:1)”を思い出しましょう。ますます神の国から遠い者になってしまうことでしょう。

【弟子の教え】弟子たちは教えているのです。随所でそうするように、ここでも、“失敗を通しての教え”をしているのです。“イエスは私たちに憤られた”と言っているのです。そして、これが教会の教えになっているのです。“不品行がそのままになっている者には、聖餐に与ることを認めない”と式文にあります。裁くことをするのですが、偶像によってではなく、救い主に対して“幼子のようなか”を問いなさいとあるようです。他のものではなく、主によって祝福されるのです(10:16)。

週報

2010年 8月 8日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042